

# 市立瀬戸内市民病院などを視察見学

京都府国保診療施設協議会の職員府外現地研修会



京都府国保診療施設協議会の平成 29 年度職員府外現地研修会が 10 月 12、13 の両日、岡山県瀬戸内市の瀬戸内市立瀬戸内市民病院、赤磐ふれあい公園で行われた。研修会には府内の 5 国保診療施設から事務職 11 名、看護師 11 名、技術職 4 名と国保連合会職員 2 名の計 28 名が参加し、病院見学や講演会などで有意義な視察研修となった。

第一日目は、市立瀬戸内市民病院の視察を行った。同病院は岡山県南東部の医療圏に位置しており、平成 28 年 10 月に新病院が開院され、2 階建てで病床数は一般病床が 64 床、地域包括ケア病床 16 床、回復期リハ病棟 30 床の計 110 床。瀬戸内市内には一般病棟を有する初期救急を担う病院は同病院のみという状況の中、地域医療構想に沿った形で一般急性期医療の機能を維持しつつ、地域のニーズに応え、地域包括ケアを実践されている。また、医師不足の状況においても、在籍している職員を第一に考

えた医師採用を实践されており、職員が働きやすい職場づくりに対して、参加者から最も共感が得られていた。

また、岡山県国保連合会保健事業課の河井大悟氏から看護師確保対策事業について話を聞いた。医師・看護師の人手不足解消に向け、国保診療施設協議会として看護師ガイドブックを作成し看護職養成機関への配布や岡山県ナースセンター主催の事業に参加し、本事業の普及啓発を図られている。

二日目は、赤磐ふれあい公園にて岡山県女子バレーボールチームの岡山シーガルズコーチの中田聖子氏より「選手の能力を引き出すコーチング」と題した講演があった。経験の少ない選手を育てるためのコーチングや仲間を思い助け合うチームづくり、各人にあわせたきめ細かな指導の大切さなどについて話が及んだ。

参加者は研修を通して、チーム医療や協働の必要性を改めて認識できた。